

第3回目標達成シナリオ小委員会のHFC等3ガス部門の検討で提出された主な意見・論点

1. HFC等3ガスの排出量削減の重要性について

- HFC等3ガスの潜在排出量は、二酸化炭素換算で運輸部門の貨物輸送とほぼ同程度で、実排出量でもその2分の1程度であり、かなり大きな割合を占める。また、大気中に放出されるガスの多くは意図的に生産される物質であることから、削減は技術的に十分対応が可能であることを認識する必要がある。

2. 排出抑制対策について

- 冷媒や発泡剤等の用途では一般に排出までに長期間を要するため、物質の代替を進めた場合、2010年という短期での効果はあまり現れないが、2020年、2030年という長期にはかなりの削減が見込める。
- 家庭用冷蔵庫等については、既に家電リサイクル法の対象となっているが、カーエアコンからのHFCの回収については、法制度を含め今後の国の施策が非常に重要である。

3. データの整備について

- HFC等3ガスに関するデータについて、関係機関が協力してしっかりとしたマスフローの統計や対策による削減効果の根拠データを収集するべきである。